



おおばの裕子の

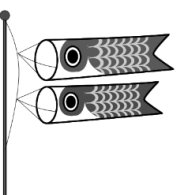
ゆうゆう通信

No.50

2016年4・5月号

日本共産党
市会議員
(中原区)
市政報告

(連絡先)
日本共産党川
崎市議員団
TEL 200-3360
FAX 245-4140



公有地を活用して 認可保育園整備に全力を

【予算審査特別委員会にて】



川崎市議会第1回定例会(3月議会)において、2月15日に横浜川崎国際港湾株式会社設立についての代表質疑、3月9日に予算審査特別委員会で、左記を質問。
①井田病院患者送迎シャトルバス
②高次脳機能障害
③中原区内の子育て支援団体
④中原区の認可保育園への入所状況と整備について

中原区の認可保育園申請者は、前年比181人増の2035人、不承諾数は113人増の63人と不承諾率は42.4%と半数近く入所できず、不承諾率・率ともに7行政区で最悪です。川崎市が示す5年間就学前児童人口推計は、もうすでに平成28年4月の推計値を上回っている状況を認めた答弁をしながら、当初予算案に計上した整備を進

中原区認可保育園の不承諾者 863人、42.2%が入所できず

【認可保育園入所状況】

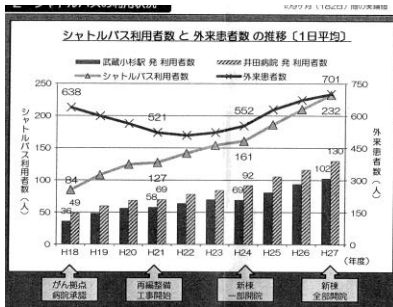
平成28年度分			
区名	利用申請児童数	内定数	入所保留数
川崎区	1,095	785	310
幸区	1,151	850	301
中原区	2,035	1,172	863
高津区	1,566	983	583
宮前区	1,387	1,009	378
多摩区	1,202	799	403
南生区	682	513	169
全市計	9,118	6,111	3,007

大庭議員は、県から活用跡地(上小田中と中丸子)について言及。中丸子の県有地は、民間に売却され、上小田中県有地は、県警が最低5年間仮庁舎として使用をすることが、君嶋県会議員の調査でわかりました。大庭議員は「仮庁舎の終了の時期を見通して用地を確保するように今から県に要請すべき」県と交渉を重ね、「場合によっては、県は公共的利活用であれば不動産鑑定評価額の25%を減額するとしていることからも、購入も含め公有地確保に全力尽くすべき」と質したところ、市長は「公有地の有効活用につきましては、今後とも積極的に推進していく」と答弁しました。

上小田中6丁目の県有地 確保への働きかけを

め、入所できなかった方には、他の施設や多様な手法で対応するという危機感のない答弁でした。

【増えるシャトルバス利用者】



【廃止になる シャトルバス】



大庭議員は、以前から「井田病院患者送迎用のシャトルバスの運行は、廃止せず、継続すべき」ことを求めていました。ところが、川崎市は、2016年この3月末で終了を打ち出しました。廃止の理由は、小杉駅からの「路線バスの充実により、シャトルバスが路線バスの妨げの要因となる」としていますが、「シャトルバスと路線バスの始発駅は同じでも運行ルートは違い、シャトルバスを利用してきた市民、特に高齢者の方など経済的、身体的にも困難な方々の足を奪う」と指摘し、再度、継続を求めました。

井田病院患者送迎用シャトル バスの運行は廃止ではなく 武蔵中原駅始発で継続を提案

病院局長は、「路線バス増便後、アンケート調査を行い、井田病院へのアクセス改善の手法等について、研究を進めていく」と答弁。

大庭議員は、始発を武蔵中原駅から運行すれば、最短距離で井田病院に行けることを提案。さらに駅や主要施設(井田病院・国際交流センターなど)のアクセス充実のニーズがあるため、交通局、まちづくり局にも研究・検討するよう再度、要望しました。

高次脳機能障害に特化した地域活動 支援センターを 南部と中部地域に整備を求める

高次脳機能障害に特化している高津区の地域活動支援センター(2012年7月開設)での相談が増えていることから、大庭議員は、南部と中部地域に同様のセンターの整備を求めました。

おおば裕子さんに 期待します

井田病院は、日ごろから、お世話になっている病院です。井田病院行きのシャトルバスが3月いっぱいまで廃止になる事を聞いて、驚いている。どうしてやめるのか！バスで小杉駅まで行き、無料のシャトルバスを利用している者からすると、とても不便になる。行政はもっと住民の事を考えてもらいたい。大庭さんには、宮内1丁目上河原バス停に屋根を付けていただいて大変便利になりました。これからも、地域での声を聞いて、行政に働きかけてくれるよう、よろしく願います。

(宮内) 矢幡忠男

中原区子育て支援団体への補助金の 支援を 「地域こども・子育て活動支援助 成モデル事業」など活用拡大を

高次脳機能障害は特殊性があり、障がい者ひとりでくりできないのが特徴。特に南部はリハビリテーションセンターがこれから計画されることから施設内での整備を求めました。健康福祉局長は「高次脳機能障害を含め、障害のある方の居場所づくりに向けて、取り組んでいく」と答弁しました。

中原区の車座集会(2月17日)は、「地域の子育て」をテーマで実施をされ、市長と中原区子育てサロン、ママカフェ、パパママパーク、おいでおいでルーム、レインボーリングの5団体と傍聴者をあわせて22名が参加しました。保護者自らが地域で保育を行っているグループに対しては、教材費や会場費等を助成する子育て自主グループ支援事業補助金があります。この5団体には適用されていません。おいでおいでルームでは、「以前は川崎市の空き店舗活用支援事業、活動センターの補助金を受けていたが、今、赤字で運営している」とのことです。

大庭議員は、「子育て支援の役割を担う団体など、例えば家賃の補助など運営に支障がないよう支援すべき」と要望。新制度の『地域こども・子育て活動支援成モデル事』は、10団体補助交付予定額は約259万円です。新年度からでも団体数を増やし、これらの団体が活用できるよう要望しました。こども本部長は「今年度の実施結果を踏まえ、事業の周知方法や、応募要件を含めたモデル事業としての検証を行い、新年度に反映する」との答弁でした。

代表質疑

「国際コンテナ戦略港湾は不要不急の大型開発と指摘し、反対しました」



【代表質疑の大庭議員】

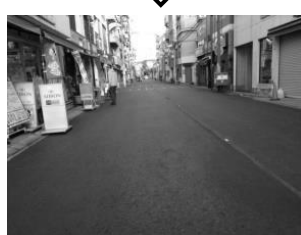
大庭議員は、横浜川崎国際港湾株式会社設立に伴う「川崎港湾施設の指定管理者を指定する」議案について、日本共産党を代表して質問。国の京浜港「国際コンテナ戦略港湾」施策に沿って進めるものですが、経営統合に参加しなくても、これまで通り川崎港コンテナターミナルを運営することは可能であり、「複雑な仕組みをとってまで経営統合に乗り出す必要はない」など質問。党市議団は、不要不急の大型開発であるとして議案に反対しました。

地域の要求が実現

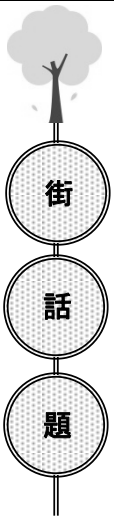
◆井田2丁目バス通りに防護柵
「急な坂からの車がすべり落ちないようにガードレールを」との要望があり、道路公園センターにお願いし、防護柵が設置されました。



◆新城ゆうゆう通り商店街の舗装打ち替えがされました
道路の痛みが激しいことから9月に修繕の要望がだされていました。



◆12月でとりあげた学校施設の修繕が進みました
・宮内中学校体育館雨漏り↓3月末
・ろう学校図書室のエアコン設置↓
2016年度設計で、17年夏に工事予定。



○県有跡地を特養&保育園が合築
『川崎区境町フェニックス特別養護老人ホーム』『境町パイナップル保育園が合築で新設。』

県立職業技術校京浜分校跡地を活用して、特養ホーム（120名）と保育園（90名）を合築する施設は川崎市では初めてです。高齢者や面会に来られたご家族が園庭で遊ぶ子どもたちの様子を見れる談話室もありました。

【境町特養ホームと認可保育園】



○4月、井田山に「川崎市中部リハビリテーションセンター」が新設
完成式典・内覧会（3月28日）に出席しました。障がい者や関係者の方々が利用しやすいよう利便性の向上が求められます。



【4月から新設された中部リハ・センター】

○恒例・新城北口はってん会の『もちつき大会』（2月28日）で
毎年、お餅をつかせてもらっています。一人でも地域の方に足を運んでもらおうと、がんばっている商店街です。



【はってん会で餅つきペッタン】

○放射線量の測定調査実施（2月5日）しました

今年も、公園を中心に8か所（上小田中西・新城・井田杉山・今井さくら・今井西・せせらぎ遊歩道・国際交流センター・住宅地内）を行いました。全体として放射線量は減少傾向にありますが、増加しているところもあり引き続き観察が必要です。



【新城公園にて放射線量の測定】

福祉と暮らしの案内

病児(病後児)の保育

保育所等に通う子どもが、病気や直りかけ状況で登園できない時、一時的に預かります。事前に登録して起き利用時に「主治医指示書」と電話予約が必要。中原区は、新城3丁目の「エンゼル中原」で。

問い合わせ

区役所こども支援室
(744) 3239

相談は

共産党川崎市議団
(200) 3360

おおば裕子の



市民の願いが実り

小杉こども文化センターの「代替えスペース」が確保されます

小杉こども文化センターが、小杉町3丁目再開発工事により、この4月から4年間休止となります。利用団体は50もあり、年間4万人もの利用者がいます。利用する保護者からは、「子どもたちがホッとできるスペースを」と、解話の当初から「代替えを」と強い要望があがっていて、私たちも「子どもたちの居場所の確保は必要」と、求めてきました。ところが、川崎市は、新しい「川崎市子ども・若者ビジョン(案)」で、「子ども若者が安全で安心に過ごすことのできる居場所づくりを進める」と、居場所の重要性がうたっているにもかかわらず、「代替えは考えていない。新しいセンターが完成するまでは、近隣の施設で対応する」と、センター閉鎖をめぐる対応はひどいものでした。勇気をもって保護者が立ち上がり、短期間で署名727筆を集めて市議会に請願。私たちも精一杯がんばりました。私の所属する市民委員会で審議され、川崎市は、正式に「再開発の仮設施設の中に代替えスペースが確保する。それまでの期間は公共施設で対応する」と、約束しました。市民の声が、市政を変えた一幕です。本当によかったです。